

2016 年度 NGO-JICA 協議会 年間テーマ

※各回議題公募を行い、議題調整を行うスタイルは変更なし

「SDGs」をキーワードに国内外の事業などを有機的に繋げることを目的に以下の議題を中心に展開していく。

年間テーマ	対応枠組み/主担当	協議会での扱い	2016 年度末までに目指す状態/成果	メモ/その他備考
SDGs に係る取り組みについて	NGO 側：日本国際協 NGO センター (JANIC) JICA：企画部 SDGs 推進班	－2015 年 9 月に採択された SDGs に係る NGO-JICA 双方の取り組みについて情報交換を行い、今後の協働に向けての可能性を探る。	SDGs を踏まえた NGO-JICA 双方の取り組みが共有されている。	
「ODA 本体業務における NGO-JICA の連携強化・促進」	NGO 側：ワールド・ビジョン・ジャパン JICA：企画部	<p>－NGO による、ODA 本体業務における NGO-JICA の連携強化・促進のため、NGO および JICA 職員をメンバーに TF を設置する。TF においては主に技術協力プロジェクトについて NGO、JICA 双方でどのように具体的な案件形成・連携を進めていくかを中心に議論し、その結果を協議会に報告する。</p> <p>TF による活動は以下の通り</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2015 年度一号 TF の成果品として作成した案件リスト(第 1 バッチ)のうち、案件形成の可能性に係る検討結果が「B」以上と判定された案件について、NGO および JICA の当事者間で具体的な協議を開始し、一定の結論を出す。 ● 本取り組みを定着させるべく、昨年度メンバーに加え今年度新たに TF メンバーを募り、案件リスト作成(第 2 バッチ)→連携方針の確認→NGO-JICA の案件形成に向けた情報共有・連携という一連の活動を継続実施する。 ● また、前年度及び当年度の活動の振り返りを行う。 	<p>① ODA 本体事業への参加促進及び案件形成を目指す国、セクター、案件に係る NGO からの提案をベースに、ODA 本体業務における NGO-JICA の連携強化・促進に向けた個々の具体的な検討・協議が進められる。</p> <p>② 上記プロセスを通じて、ODA 本体業務における NGO-JICA の連携強化・促進の可能性・課題等を NGO・JICA 双方が学ぶ。</p> <p>③ 2015 年度及び 2016 年度の一連の取り組みにつき、NGO-JICA 双方で振り返りがなされる。</p>	※備考※ この通年課題については、実際の案件形成や双方の事業の質の向上に資する具体的な協議となるよう留意する。
開発教育推進のための協働	NGO 側：開発教育協会 (DEAR) JICA：広報室地球ひろば推進課	<p>－開発教育推進のため NGO および JICA 側のメンバーによるタスクフォースを設置する。TF にて全国の国際協力 NGO、開発教育 NGO/市民団体による開発教育/国際理解教育の実施と JICA との連携に関する現状と課題を把握し、相互の役割の確認と有効な連携強化を図るための具体的なアクションについて議論し、その結果を協議会に報告する。。</p> <p>TF による活動は以下の通り</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 国際協力 NGO、開発教育 NGO、JICA それぞれが今後具体的に何をすべきか整理するための実態調査、また、それに係る議論 ● 有効な連携強化を図るための具体的な方策の検討。 	<p>以下を例とする具体的なアクションが検討されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● NGO の教育現場での開発教育/国際理解教育実施機会の向上策 ● 開発教育/国際理解教育推進のための JICA 事業の活用策 ● 開発教育の質の向上への方策 ● 連携強化のための情報共有への方策 等 	※備考※ この通年課題については、成果として現場で実際に支援を行えるようにすることを目的とする。
地方創生/地域活性化	NGO 側：地域のネットワーク NGO JICA：国内事業部	－国際協力の経験を国内に適用し、地域活性化に貢献することを視野に入れた事業実施を目指し、NGO、JICA 双方の双方の経験を報告し、共有する。	同報告から示唆を得て、各団体がそれぞれの事業への活用を検討する。	※地域開催の効果的な活用を検討：金沢

※昨年度の重点課題については適宜フォローアップを行い、要に応じて議題化を検討する